

## 審議結果

審議会等名称：総合計画審議会第87回計画推進評価部会

開催日時：令和元年10月28日（月）10:00～11:30

開催場所：神奈川県庁新庁舎 5階 第5会議室

出席者：○内田裕久、能登ゆか、平田美智子、小池智子、朱銘江、杉田敦、伊達仁人、坪谷美欧子、中西正彦、矢島洋子、山本篤民、今井敏之助、岩田知二〔計13名〕  
（○副部会長）

次回開催予定日：未定

問合せ先：政策局政策部総合政策課計画グループ 石川 聖

電話番号045-210-1111（内線3064） ファックス番号045-210-8819

---

### 審議経過（議事録）

#### 議題1 「かながわブランドデザイン 第3期実施計画」の評価について

《資料1『「かながわブランドデザイン 第3期実施計画」の進行管理について（案）』、資料2「かながわブランドデザイン評価報告書様式案」、（別添）「SDGsを座標軸とした検証（イメージ）」、参考資料1「政策のマネジメント・サイクルについて」、参考資料2「総合計画の策定等について（答申）」、参考資料3「実施計画の評価に関する審議会等の主な意見」、参考資料4「今後のスケジュール（予定）」について事務局から説明》

- 内田副部会長：ありがとうございました。ただ今、事務局から資料についてのご説明がありましたが、本日は、新しい総合計画の評価手法について、ご審議いただきたいと思います。最初に私からお話ししますと、KPIなどを取り入れてたくさんのデータが出てきた反面、これを読み解くのが難しくなっていると感じます。また、前回の評価報告書では、グラフがあって見やすかったのですが、今回の案では、これが表になっていて数値を追いかけていかなければならない部分があります。いずれにしても、この案については、事務局の方で、丁寧に、詳しく検討してきたものだと思いますので、これをより良いものにするためにも、どうぞ、皆様から忌憚のないご意見をお願いします。
- 坪谷委員：SDGsを座標軸とした検証については、総合計画審議会の答申の際に出てきたものと拝見していますが、もう少しSDGsを座標軸として用いる目的や意義が明らかになっていた方が良いと思います。さきほど副部会長が言われたように、たくさんの指標があるため、逆に分かりにくくなっているということが懸念されます。せっかくSDGsの考え方をを用いるということであれば、持続可能な開発目標ということで、より世界的なスタンダードで自治体や都市を見ていくという視点になると思います。神奈川県以外の自治体でSDGsを使っているところはそれほど多くないと思うので、これを是非、神奈川の強みとして、「なぜ、この指標が必要なのか」、「これを使うことで、どういうことが分かるのか」、経済、社会、環境の三側面のバランスに配慮しているというところだと思いますが、もう少し神奈川での取組みや指標を使う意義を強調しても良いと思いました。また、それに関連して、表記の方法について、資料2の別添としてA4版のサンプル1枚が付いていますが、イメージとしては、これが報告書の最後に一枚だけ付くのか、それぞれの項目ごとに付くのかを確認させていただきたい。県民からすれば、「見やすさ」や「分かりやすさ」という部分が重要で、経済、社会、環境の三側面からアプローチしている取組みを記載する欄がありますが、果たしてこれだけで十分なのか、少し心配になります。
- 佐藤総合政策課長：SDGsにつきましては、計画策定時の審議会でも盛んにご議論をしていただきま

して、世界標準として神奈川県においても取り入れていこうということで、総合計画に入ってきたものと承知をしています。ただいま、坪谷委員からせっかくSDGsを入れる以上は、その意義を明らかにした方が良いというご意見を伺いましたが、その部分につきましては、なぜSDGsを冊子に当てはめていくのかということについて、この評価報告書の中で強調していきたいと考えています。それから、経済・社会・環境の三側面に留意するというようなところを文章などのところで強調したほうがよいということは、我々も総合評価というような形で計画を見ていく中で、どこか1つのプロジェクトのKPIが達成していればよいのかということとそうではなくて、バランスよく施策が遂行されていないと全体として達成できないことと同類というようなことだとも思います。そのあたりのバランスをきちんと取っていくことが大切だと思っていますので、その部分を強調して書かせていただきたいと思っています。ただ、我々も総合計画にSDGsを当てはめるために試行錯誤の真っ最中でして、そのためにご意見をいただいているわけですが、動き出しながらということになるかもしれませんが、KPIだけではなく、SDGsに当てはめて評価をしていきたいと考えています。また、資料2の別添がどう使われるかということですが、事務局としましては、プロジェクトごとではなくて、最後に1枚配置するということを想定しております。

- **池田政策部長**：追加でご説明させていただきます。SDGsを座標軸とした評価というのは、平成30年3月にとりまとめた社会環境の変化に関する部会の報告書の中で、SDGsを1つの座標軸に県がこれまで取り組んできた政策をさらに進化させるというような提言をいただきまして、それに基づいて昨年SDGsを座標軸とした点検を行ったという経過と、第3期実施計画の策定に当たって、県の事業とSDGsとの関係を整理して記載するとともに、各プロジェクトページに関連するアイコンを表示するという2つの経過があって、今回このような評価の（案）をお示しさせていただいたところでございます。委員にご指摘いただいたとおり、具体的にどういう形で使っていくのかということも含めて、まだ研究途上のところもでございます。ただ、世界標準にあっては、SDGsは評価をする際の1つの指針ともなってきますし、部会の中でも、総計審の中でもそういったご意見をいただいておりますので、このような形で今は整理させていただいております。資料2の別添については、県の取組みがSDGsとどうつながっていくのか見せたいということがありまして、まずは県の主な取組みと、それがプロジェクトのどこに記載してあるのかを記載させていただいて、そしてそれがどのゴールにつながっていくのか見せるという作りとなっております。ページの下部では、三側面をバランスよく進めていくことが必要であるということで、その面から検証した結果を記載していこうと考えております。SDGsに関するページ数についてはどうなるかまだ分かりませんが、できるだけコンパクトにまとめていきたいと考えております。また、先ほど課長が申し上げたように、報告書の最後の方に配置していくことを予定しております。基本的にはプロジェクトの評価をどういった形でやっていこうかということで、報告書全体の構成を整理させていただいております。以上です。
- **内田副部長**：私からも補足させていただきます。ご承知のとおり、SDGsは国連が世界における課題について最大公約数的に整理して17の分野に分けたものです。しかし、逆に言うと、自分たちが担当している分野だけを見てしまうと他が見えなくなる可能性もあります。そういうときに、こういう座標軸をベースにして全体を見ていけば、漏れているところはないかということで気が付くこともできるのではないかと、県の方で座標軸として取り入れてやっていきたいと思いますという考えとなったという背景があったかと思えます。課題を並べてそれがどのゴールに対応するかという大きな表があったかと思いますが、そのような整理をしてこれまでやってきたという流れがございます。先ほど坪谷委員がおっしゃられたとおり、他の自治体ではあまりやっていらないのですが、神奈川県は結構率先してやっていると背景がございます。よろしいでしょうか。他にご意見はございませんでしょうか。
- **杉田委員**：今の点についてですが、いろいろな方からご指摘があったとおり、もともとはSDGsを先に掲げてそれに対応する形で政策を整理するという整理の仕方をするという案もあったかと思うのですが、

それですとむしろSDG sの構成にあまりにも引きずられてしまって、県としての施策の一貫性が取りにくくなるのではという意見もありまして、先に政策を自主的に立てた上で、検証の段階でSDG sと比較していくという意見が出たと記憶しております。そして、今回はそれに沿った形でまとめていただいているので、その方向性は良いと思っているのですが、ただこの資料2の別添で分かりにくいのは、プロジェクトが1つのSDG sのゴールに対応することになるかどうかについて、現在はSDG sの17のゴールが、それぞれにプロジェクトが当てはまっていくとイメージされていますが、実際には、あるSDG sのゴールには多くのプロジェクトが対応しており、逆に途上国の問題に関係するゴールなどについてはあまり対応していないと思います。このような整理はしづらいのではないだろうかと危惧しています。

- **内田副部長**：ありがとうございます。SDG sに対する県独自の施策との対応と検証が必要ということですね。関連して何かありますか。
- **矢島委員**：2点あります。1点目は先ほどの件と関連しています。今、杉田委員が発言された様にSDG sは、それぞれのゴールが関連し、つながっているというのが特徴です。いろいろな政策のゴールが複数設定され、つながってくるのがありえてもいいと思います。そこが示せば、次の段階で一定の成果が出て次の目標として立てられるという見方でもいいと思います。もう1点ですが、参考資料1で政策のマネジメント・サイクルの話がされましたが、4年目のところの政策全般の点検が何より重要だと思っています。その中で、特に社会環境の変化を検証した上で、それとの関係性をきちんと分析する。これが、ある意味できなかつたことが大きな問題です。今回はSDG sと結びつけるのであれば、ここを特にやらざるをえないと思います。2017年の評価報告書の96ページに「合計特殊出生率」という社会環境を表す指標がありますが、このときの横についているコメントには、変化の事実、データの読み方だけが書いてあるだけです。これにそこまで書いていけるのが非常に大きな問題です。出生率は短期的に評価するのは難しい指標ですが、ここに示されているように2005年に底を打ってから、長期的に回復傾向にあることは、これがどのような背景になるのかを国や自治体では分析していません。大きく見ると社会環境としては、経済環境の若干の改善、若年層の雇用環境が改善、団塊ジュニア世代の駆け込み出産があったことなどが指摘されています。しかし、各自治体がやっている施策の何が功を奏していたのかが語られていません。今後いろいろな施策、特に少子化の問題について、ターゲット層が少なくなっていくなかで、投入される資源の選択と集中が議論されず、何が功を奏して変化がみられたのかが見られないと、そのあたりの議論ができないと思います。4年目と書かれたところの、社会環境の変化をある程度中長期的に見たときの施策との関連性に結びつけられるような評価にできるようにと思っています。
- **内田副部長**：ありがとうございます。杉田委員と矢島委員からSDG sに関することでは、今後県と施策との検証をしなければならないと思う。委員からご指摘があった4年目の社会環境の変化の検証をすることで、例えば出生率の関係で事務局から何かご意見はありますか。
- **池田政策部長**：ただいま矢島委員から出生率の話がありましたが、評価が難しく、どの施策が出生率の増減につながってくるのかが、どこも評価していない状況がありますので、国の状況等も踏まえながら、今後評価していきたいと思っていますし、4年目の点検の際には、今委員がご指摘のところも評価の対象になってくるだろうと考えています。ただ、おっしゃるとおり短期的に見て、分かるものでもないというところでもありますので、具体的に少子化対策の施策を県でも沢山やっていますけれど、あるいは国でも同じような施策をやっていますけれど、どういった形で（結果が）出ているのかというのを、各担当部局でも判断していると思いますけれども、そういった点は点検の際等に入れていきたいと思っています。
- **矢島委員**：一つ考え方のヒントとしては、合計特殊出生率は本当に最終的なアウトカムですけれども、その手前にいろいろと今までの研究の中で関係すると思われる社会環境というのが示されていて、実際に

県で施策に落ちている子育てしやすい環境づくりというのは、そういった出生率の手前にある社会環境をどう変化させるかということに実際はつながっていると思います。まずはその周辺の環境指標をきちんと精査して、その変化だけでも確認して頂きたいと思います。そうしないと出生率だけ見ても正直よく分からない。その辺りの整理が中々なされていないので、できればその子ども子育て家庭をめぐる社会環境のデータを同じ時期にきちんと精査をして、それと出生率の関係をやるべきだと思います。

- **内田副部長**：分かりました。では続いて何かあれば、山本委員お願いします。
- **山本委員**：今までの説明の中でもう一度確認させていただきたいところが、資料1のグランドデザインの進行管理案の5ページのところです。ちょうど見直しが必要ということで、ア～エの4つの項目がついていたと思いますが、その中のアのKPIと指標の見直しについてですが、前回は毎年のこの達成数とか指標が出ていたと思いますが、前回と今回、変えようとしているところの違いが分からなかったのもう少し詳しく教えていただければと思います。
- **佐藤総合政策課長**：前回、第2期実施計画のときには数値目標として一括して記載されていましたが。今回、KPIと指標と分けて、県の施策が反映していくKPIと、県の施策だけでなく多様な主体であるとか社会環境にある程度左右されてしまう指標とを分けて数値目標としたということですが、KPIについては従来通り毎年度同じように実績値を示して分析して評価します。指標についてはもう少し大きな視点ですので、参考として実績値を示すものの、毎年の評価をせずに総合評価の参考値として記載するという事です。KPIの方は毎年度目標を立てていますが、指標については毎年度までは目標は立てていないものでございます。
- **山本委員**：わかりました。ありがとうございます。あと、もう一点ですが、そのKPIの関連というと、この資料2のレイアウトの説明の中で、KPIの達成状況ということで書かれていると思うのですが、これは完成版のときにもKPIという用語が表示されるのでしょうか。要は県民の皆さんが見たときにKPIというのは何なのかということで、始めの方に説明を書くのか、あるいはこういったKPIと書かなくても指標があれば達成状況が分かるので、日本語がちりばめられている中でかえって浮き出すようなところがあると思いますので、その扱いをどうするかということについて、今の段階でもし分かれば教えていただければと思います。
- **佐藤総合政策課長**：凡例という形で記載をしていきたいと考えています。
- **内田副部長**：できれば報告書を最初に見たときにKPIってなんだとにならないようにした方が良いでしょう。
- **池田政策部長**：グランドデザイン評価報告書2017の4～5ページのところに凡例を載せていますので、KPIと指標についても凡例のところに加えたいと考えています。グランドデザインの本体の方にもKPIと指標については記載しています。
- **内田副部長**：読んだときに分かるようにしていただきたいと思います。小池委員どうぞ。
- **小池委員**：資料1の3の(4)のイについてですが、証拠に基づいた政策立案 Evidence Based Policy Makingの考えを踏まえて、できる限り成果との因果関係が明らかになるような示し方をすることで、資料を拝見すると、「このことをやったことによって、これができていると考えられる」という表現になっているのは分かりやすく良いと思います。この計画自体がきちっとしたロジックモデルに基づいて立てられていないと思いますが、その実施状況というのがどういう状況で、アウトカムとして成果がどう

だったのかという関係性はわかりませんが、それが本当に達成できたものについては、きっちりとしたインプット、予算も付けられ実施されたと推測されます。うまくいかなかった、達成できなかった例として、2017年度の評価報告書の23ページの「再就業を働きかける未就業看護職員の対象者数」があり、目標達成率が20.7%となっています。目標値がいいのかどうかという問題もあるかと思いますが、それよりも実際に県のナースセンター、ハローワークにおいて、こういう方たちの支援を強化するということに対して、どれだけの予算が付けられ、どれだけのことが行われたのか、何故できなかったのかということ进行分析するためのデータがない。前回どう評価しているかということ、目標値に対して実績値はこうで、実際に行われたのはこういうことで目標を達成できませんでしたと。目標値の設定が十分でなかったからかもしれないと私は意見で申し上げましたけれど、一方で、それを達成するために十分なインプットがあったのかということについては、全くデータがないので評価ができなかった。おそらくEvidence Based Policy Makingといった場合には、ロジックモデルを作ってその目標を達成、アウトカムを達成するためのアウトプット、そしてアウトプットを達成するためのインプットが十分だったのかというあたりを流れて評価をするということが、とても重要なことだと思います。もちろんインプットについては、報告書に書くという性質のものではないのかもしれませんが、何故達成できなかったのかというようなことを判断する資料として、一次評価で県として分析しているときにインプットが十分だったのかというような観点からも、資料を作っていただき提示いただくと、二次評価において緻密な評価ができると思います。2点目は、資料2の中でわかりやすく良いと思ったのが、社会環境を表す統計データ等の中の3番目のデータ、県民ニーズと県内の状況、それから全国との比較というところで、全国平均との比較だけではなくて、ベストプラクティスと比較していく、一番いい県との比較をしてどうだったのかと。ベンチマークができるようなデータをお示しいただけるのはとても良いことだと思います。全国平均と比べても、仕方がないこともたくさんありますので、一番いいところと比較して神奈川県としてどうなのかと考えていく指標としては良いと思いました。

- **内田副部長**：それでは、小池委員からご指摘のEBPMの示し方について、記載スペースの問題などもあると思いますけども、事務局の方から何かお考えがあれば。
- **佐藤総合政策課長**：現時点では、考えがあるわけではないのですが、いただいたご意見を踏まえさせていただきますと思います。
- **小池委員**：もともとは、ロジックモデルは立てていないのですか。
- **池田政策部長**：庁内では、予算事業ごとに立てるということになっています。事業が終わった後で検証できるように目標値を立ててください、という形で財政当局の方がそれぞれの予算事業ごとに行っているところです。そして、実際に事業をやったことによって、どういう効果が出たのか明確にして、効果が出ないものはやめていく、あるいは考え方を変えていく必要があるだろうということで、今回も数値目標をきちんと立てて、ロジックモデルに基づいて作っていきましょうと。本格的なロジックモデルといえないところもありますが、そういった取組みを始めたところです。ただ、KPIの数が151ありますので、個別にそれぞれのデータごとに出せるかも含めて、二次評価に向けて検討していきたいと思っています。
- **小池委員**：全てではなくて良いのかもしれませんが、達成率が著しく悪いものに関しては、実施の仕方が悪いのではなくて、そもそものインプットが悪いからできなかったと考えられるものもあると思います。そういうものについては、インプットに関する資料も提供していただけると、二次評価では妥当な評価ができるのではと思いました。
- **池田政策部長**：検討させていただきます。

- **平田委員**：SDGsを座標軸とした検証は、非常に良いと思うのですが、一般の県民の立場からだとSDGsそのものが分かりにくいことがあります。SDGsの中心の理念になるもの、命を大切にするとか、人々の暮らしを守るとか、いろいろな人とつながっていくとか、もう少し分かりやすく出してほしい。そして、未病対策とか貧困対策、特に災害などが起こると安心・安全が県民の関心事だと思いますので、安全とか健康とか、そういったものがSDGsの理念と合致しているということでSDGsを採用したということがどこかにあると、もっと身近に感じられると思います。あと、神奈川の強みを生かしてということで、先ほどから少子化の話も出ていますが、人口減は避けられない話なので、高齢者と外国人材ですが、神奈川県は確か外国人が全国4番目だと思いますから、外国人が住みやすい県をめざして、ということで強みを生かしたところをこれから掲げていっていただくとよいのかなと思いました。
  
- **内田副部長**：他に何かありますか。
  
- **岩田（知）委員**：SDGsについて、行政とか学術の場とか、大企業では当たり前のように取り組まれていることですが、中小企業やその他、世間のほとんどの人が知らないと思って取り組まないことには、本当に分かりやすいアウトプットはできないと思うのです。もちろん、こういう場所では、しっかり議論して詰めていき、常に県民を意識して考える必要があります。この資料1の5ページ目に調査結果の公表について、概要版をビジュアルにまとめて、より分かりやすく示すと書かれています。本当に平たい、やさしい言葉で、この概要版では、SDGsはどういうもので、我々の取組みがどのようにかわり、反映されるかということや、一般の社会でも同じであるということ、分かりやすく説明していただくということが肝要かと思います。これは、県民の立場から考えて必要かと思います。それからもう一つは、資料2については、非常に分かりやすくなったと私は思います。ただし、前から気になっているのは、「概ね順調に進んでいます」とは、非常に幅が広くて、進んでいるものや進んでいないものもあり、ミックスして概ね順調になっているかと思います。ここに書かれている言葉を見ても、「～が着実に進みました」、「～を上回りました」など、順調に進んでいることがすべて書かれています。それでは、順調に進んでいないものは、どういうことなのかということも透明性をもって書くことが良いかと思います。そうすれば、二次評価でも、それに対していろいろなアイデアが出たりするかと思います。「概ね順調」とは、非常に便利な言葉ですが、県として直接的に携わったが、なかなかできなかったこともあれば、社会環境の変化とかで、間接的にかかわっている主体がうまく活動できなかったことにより、県としても残念ながらそこが特に遅れているということもあるので、その辺を書いていただければよいと思います。
  
- **内田副部長**：ありがとうございます。今言われた、委員からのご意見に沿うものについては、今日はありませんでしたが、SDGsと県の個々の課題との対応表ではないかと思います。ビジュアル的にSDGsを示すと、なぜ県はこういう対応をしたのかというようなものを、また会議で配っていただきたい。毎回、皆さんが出席されるとは限らないので、ちょうど今、池田部長がお持ちのような資料を配っていただき、委員に常に繰り返し見ていただくことが、分かりやすさにつながると思います。やはり、今のご指摘の通り、SDGsの啓蒙というのは、ずっと続けなければいけないので、是非その辺も事務局のほうで対応いただきたいと思います。
  
- **中西委員**：エビデンスベースの政策評価というのはすごく大事であるし、そちらの方向にSDGsを使いながら緻密に評価していこうという姿勢自体は非常によいと思っています。その際に、とても気になるのは、個別のプロジェクトの評価にすごく突っ込んでしまって、全体として県が目標とする県民生活がちゃんと実現できるのか、総合的評価がどんどん難しくなってくるのではと、一方で感じています。例えば、前回のランドデザイン評価報告書2017では、8、9ページだけでさっと全体の評価をまとめ、後は個別の評価となっています。個別の評価としてプロジェクトの評価が丁寧に書かれていてよいと思いますし、

今回はさらに充実していくかと思いますが、いったん全体を見渡して、このジャンルがこう遅れているのは何故か、というような総合的な考察や全体的な評価が本当は必要ではないかと思いますが。そういう意味では、来年度に入ってから評価部会や審議会で、そういった議論がなされるかと思いますが、プロジェクト間のつながりなどもあるかと思うので、最初のグループ会議などでも横断型の話も入れるとよいかと思います。そういう意味で、資料2の別添の「SDGsを座標軸とした検証イメージ」の「県の取組みとSDGsの三側面」を分析するというのが、それに当てはまるかと思いますが、全体のバランスを評価するという項目として、意外と大事なのではないかと考えているところです。

- **内田副部長**：全体がもう少しわかるような部分について、大変だとは思いますが、ぜひ工夫をお願いします。他にご意見ございますか。
- **朱委員**：意見というよりは提案になると思うのですが、資料2を拝見して、最後の「主な取組みや統計データに関する情報」のところで、いろいろなh t t p・・・とあるのですが、ぜひこの部分に2次元バーコードに変換したものを添えてもらうと使いやすいのではないかと思います。せっかくよい報告書ができあがって、多くの人に見てもらって活用してもらいたい。しかし、そういった場合にh t t p・・・と入力することはもう最近なくなってきており、細かいところですが、すべてのプロジェクトの最後のところに出てくるといいますので、できればそういった形で2次元バーコードがあると使う方は使いやすくなるのではないかと提案です。
- **内田副部長**：ありがとうございます。これも事務局の方の工夫で可能であればQRコードなど検討してください。他にどうぞ。
- **今井委員**：2点あります。1点目は質問ですが、資料2をご説明いただいた中で、県による一次評価をする際に、何か評価シートのようなものを作成するのかというのが1点目の質問です。それを入れた方がよいという話ではなく、KPIなどの目標値を設定する際にその算出根拠のような部分については審議会でも多くの議論があったと思っています。なぜこの数字なのか、この数字の根拠は何ですかといった質問がかなり多かったかなと思っていて、それについて社会環境の変化によって算出方法が変わってしまうとか、そういったことがあると目標値の設定についても見直しが必要になってくるとかということもあるので、評価シートのようなもので評価手法や調査手法について明確にしておく必要があるのかなというのが1つ意見です。2点目は、今回お配りいただいた資料についての関連事業費が全く見えていないというのがあって、次年度の政策と結びついていくという点では、実施計画の性質上ある程度予算配分の根拠となるのかなと思っているので、ここに入れるべきかどうかというのは議論があると思いますが、どこかで見えるようにした方がよいと思います。また、事業費の結果についての分析もできれば見えるようにした方がよいと思います。
- **内田副部長**：ありがとうございます。2つご質問があったと思います。最初はKPIの取り上げ方のプロセスをもう少し明確にというご意見で、それから関連事業費については、例えば2017年評価報告書の最後のページのところに、プロジェクト別ですが予算の一覧が載っていますが、これは今度も同じように載せるということですね。最初のKPIの設計のプロセスといった部分について、事務局からご説明をお願いします。
- **池田政策部長**：プロセスというか、今回計画の中で、KPI・指標の考え方をプロジェクト編の98ページからの部分で示させていただいたところで、その中で整理をさせていただいているところです。評価に当たって、いわゆる点検シートといったものを作っているということではなく、考え方を示した上で各部局の方で評価していただいているということです。これまでも第2期実施計画で数値目標を立てていまし

たが、途中で、例えば調査自体が無くなってしまったケースもありますが、そうした場合も新たな数値目標を立て直すということはしていません。県の基本的な計画なので、途中で数値目標を変えることや、達成ができていないから目標水準を低く見直すということはしていません。どういった形で指標を評価しているかということになるべく具体的に示せるように、二次評価にあたっては、一次評価はこういった形で評価しているということを示せるように、グループ会議等でお示しできるように工夫はしていきたいと思えます。点検シートのようなものを作ってということまでは考えていません。具体的にできるかどうかは検討していきますが、従来通りのやり方でやっていくことを今のところ考えていますが、ご意見いただきましたので検討していきたいと思えます。

- **内田副部長**：今井委員よろしいでしょうか。またご意見ありましたらぜひお願いしたいと思えます。他にいかがでしょうか。
  
- **能登委員**：重ね重ねになりますが、SDG sを座標軸にした検証というのは大変良いと思えますが、あくまでも検証ということであって、例えばそれが念頭にばかりいってしまうと県の取組みが、この取組みがSDG sのゴールの取組みとつながっているから県民も万々歳だ、と捉えるとそれはそれでよくないことだと思えます。SDG sのゴールと関係していることはとてもよいけれどもあくまでも県民を置いてきぼりにしてはいけないと感じています。県民目線と言うと、先ほども意見がありましたが、SDG sって何だろうということで、ゴールと県の取組みがリンクしているから何なのかと思われては困りますので、その説明は重ね重ねしていく必要があると思えます。新しいA3版の資料2について、取組みと成果が明らかになったことはどんな方にも分かりやすくなってよいと思えます。QRコードの話がありましたが、できるか分かりませんが、例えば、県の取組みをホームページ上で見たときに、県民の方が「いいね！」をできるようになったら、面白いかなと思えます。そうすると県の担当者の方もちょっとやる気が出たりして、こんなに「いいね！」が入っているというのが分かったりして、面白いかなと思えます。
  
- **内田副部長**：ありがとうございます。とても面白いご提案です。ぜひそうしたやり方を一度考えていただければと思えます。お手元のかながわブランドデザインの会議用資料のプロジェクト編66、67ページからSDG sについては一通り説明が出ていて、本当はこうした大事な指標であるならもっと前のページにあった方が良いでしょうが、こここのところで神奈川県として医療、共生、教育、まちづくり、産業労働、環境、エネルギー、農業、食とSDG sの関係性を説明されていて、70ページで各部局がそれぞれ対応している表を、73ページにはそれぞれの具体的な対応の説明やデータが載っています。こうしたものを最初に皆さんへある程度ご説明をしていただければ先ほど岩田委員からもご指摘があったようにもう少し分かりやすくなると思えます。これはもっと前へ出した方が分かりやすいですね。トップの方へ持って来て、これをもっと出して示されるのも大事かなと思えます。他に何かご意見ございますか。それでは大体ご意見が出尽くしたと考えてよろしいでしょうか。本日はたくさんのご意見をいただきましたのでこれをぜひ部局の方へ参考にしていただきたいと思います。本日ご審議いただいた「部会からの報告案」について、11月13日に開催予定の総合計画審議会に報告いたします。皆様からいただいたご意見につきましては、私の方で預らせていただき、牛山部会長や事務局と調整の上、総合計画審議会に報告させていただきますと思えますが、よろしいでしょうか。
  
- **一同**：（異議なし）
  
- **内田副部長**：ありがとうございます。それではそのようにさせていただきます。議題2の「その他」ですが、事務局から何かありますか。よろしいでしょうか。それでは、本日の議事につきましては、以上をもって終了とさせていただきます。熱心なご審議をありがとうございました。